



はじめに



読書は、人生を豊かに楽しく生きていくために欠かせないものです。

本を読むことにより、私たちは、日常の世界を超えて、遠い過去にさかのぼったり未来に思いを馳せたりして、広い世界に足を踏み入れることができます。また、先人たちがこれまで創り上げてきた膨大な知識、思想、技術に触れることもできます。

読書は、私たちの心の奥底まで入って、深い感銘を与えてくれます。また、時には楽しみとなり、時には心の癒しとなり、時には生きていく上での指針となるなど、私たちの生活の隅々にまで恩恵をもたらしてくれます。

今やICT（Information and Communication Technology）の進歩によって、必要な情報や知識は容易に得られるようになりました。しかし、インターネット上やマスメディアに氾濫する情報の真偽や価値を見分け、またそれらを組み合わせ、思考し、判断を下すことは私たち自身がしなくてはなりません。これは、一人一人が自ら鍛え養った思考力・判断力がなければできないことです。

そして、この自ら考える力を養う上で、読書の果たす役割はとても大きいのです。

読書は別の世界や別の人生を疑似体験することだと言われますが、読書によって磨かれた感性や、読書で培った教養があれば、物事を色々な視点で見て自分で考え、総合的な判断を下すことができるようになります。

読書は、どの年代においても重要で有効ですが、特にこれから人格が形成される伸び盛りの子どもにとって、本が与えてくれる栄養はかけがえのないものです。

21世紀の世界においては、国境の垣根が取り払われたグローバルな土俵で外国の人々と交流し、コミュニケーションをしていかななくてはなりません。他者の痛みを共感的に理解するとともに、高い言語能力が求められるのです。外国語の能力は母国語の能力が基本になっていると言われていています。自らの考えを論理的に、かつ、説得力を持った言葉で表現するためにも日本語の豊富な語彙や緻密な思考が必要になってきます。

読書においては、書き言葉に触れることができるので語彙が豊富になり、単純な話し言葉では得られない緻密な思考が可能になります。

しかし、誰でも時間さえあれば読書ができるわけではありません。「本を読む習慣」が身に付いていなければ、なかなか読書が続けることはできません。この「習慣」は心身ともに柔軟な子どもの頃の方が身に付けることが容易です。

それには、まず、乳幼児期から小学校期、中学校期、高等学校期と子どもの発達段階に応じて、子どもが読書の楽しさを知って、読書が好きになる機会をつくるとともに、読書体験を豊かにするような手立てを講じる必要があります。

このため、愛知県はこの度、「愛知県子ども読書活動推進計画（第三次）～読書が好き！と言える子どもの育成を目指して～」を策定しました。

今後、愛知県はこの計画をもとに積極的な取組を進め、家庭、地域、学校等がそれぞれの役割を果たしながら子どもの読書環境を整備することを促し、豊かな感性と思考力・判断力・表現力を身に付け、「生きる力」をそなえた子どもを育てていけるよう、子どもの読書活動を推進していきます。

平成26年3月

愛知県教育委員会